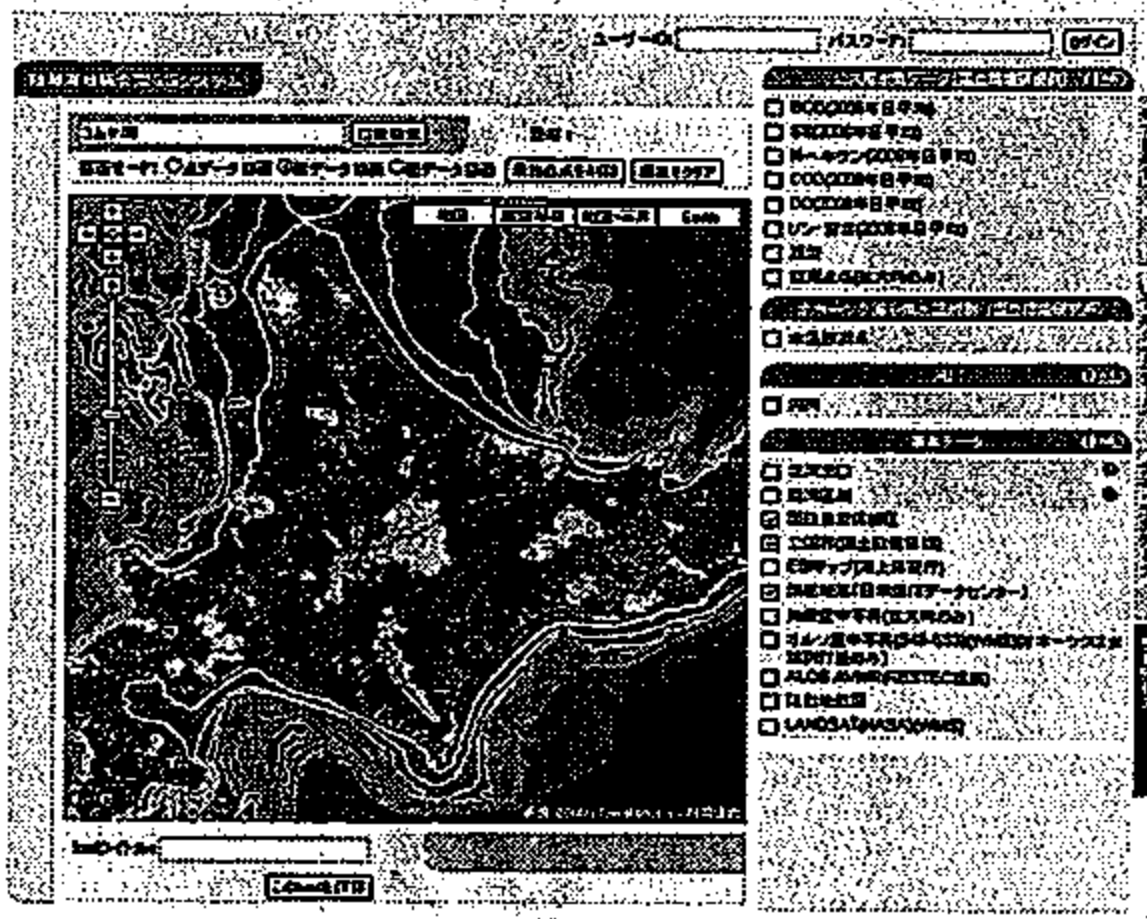


北海道におけるGISを活用した情報の共有化と情報公開

金子正美 酪農学園大学環境システム学部教授



私は地球温暖化の専門家ではないが、情報システムが貢献できることをお話ししたい。GIS（地理情報システム）は、環境問題の分野では種の分布や廃棄物の影響などについて地図と統計データを結びつけ、合

Land-Ocean Integrated GIS System
陸域海域統合型情報システム

意形成や環境の評価に使われる。住民がデータを集め、地図化することにも使われる。

「北方圏」のイメージを転換

日本が中心にある見慣れた世界地図ではスウェーデンは世界の端に来る。北方圏はいかにも広いと思ってしまうこんな地図に私たちは「洗脳」されている。ところが、札幌を中心に正距方位図法で地図を作り直してみると、スウェーデンやフィンランドはヨーロッパの国々で北海道から一番近いことが分かる。参照。そういう発想の転換をしなければ、北方圏という位置づけは日本人・北海道人には理解できない。そのためGISは有効だ。

日本でGISは最近やっと普及してきた。こうした空間情報の活用が法律・政策で環境政策にしっかり位置づけられたのは2000年代。ス

ウェーデンより遅れているが、最近の技術進歩は目覚ましい。ソフトを統合する

GISソフトウェアの大手、ESRI社の社長は、ソフトはすべて統合すると言っている。その一つの技術にマッシュアップがある。グーグルやマイクロソフトもこれをおうとしている。(人工衛星などからの)リモートセンシング、GPS(全球測位システム)、GIS、インターネットを組み合わせ、マッシュアップを使ってトータルな情報システムの構築に私たちは取り組んでいる。

つなぐ技術

私たちが取り組んでいる釧路湿原自然再生プロジェクトで作ったサイトがアメリカの本で紹介された。すべてのデータを環境地図の形に整備し重ねられるようにした。GISを

やろうと環境省、農水省、気象庁などのデータを集めた。古い航空写真や人工衛星写真を地図化していくと、77年〜00年にハンノキがどれだけ拡大したか、正確に把握できた。

この結果をホームページなどで提供する一方、北海道全体の環境情報を陸海域合わせて一気に公開するポータルサイトを作った。写真。マッシュアップ技術を使って、このシステムを環境省や国交省、北大で公開しているサーバーにリンクし1枚の地図にした。自分で整備しなくても、つなぐことで新しいシステムを作れる。

これからはいろいろなものをつなぐ時代だ。組織、人、ハードウェア、ソフトウェア、地域と地球、北海道とスウェーデンをつなぐ。お互いにより関係を作り、地球全体でデータを共有するしくみを作りたい。